

くらし

なるほど!

# 世界大恐竜展



岡山シティミュージアム（岡山市北区駅元町）で開催中の特別展「よみがえる地球の覇者！世界大恐竜展」（同ミュージアム、RSK山陽放送、山陽新聞社主催、こくみん共済c o o p岡山特別協賛）。三疊紀から白亜紀まで太古の地球上に君臨した代表的な肉食、植物食恐竜の骨格標本や生体模型が勢ぞろいする。最新研究を反映した展示物の見どころを、恐竜博士の石垣忍岡山理科大教授に解説してもらおう。

私の大学の学生に、「今度岡山で行われる恐竜展にライスロナックスの全身が展示されるぞ」と言ったら、学生たちは目を丸くした。

「えっ、あの新種のティラノサウルス類ですか！」

数年前、この恐竜発見のニュースは衝撃的だった。両眼視できる恐竜として、それがなんと岡山に来ることをくしていた。

ライスロナックスの特徴は後頭部が広いこと。その結果、目の入る穴も少し前

に向くようになって、両方の目で前方のものを注視（両眼視という）できる。だから前に立つにらまれているようでこわい。会場ではぜひ覚悟して骨格の前立に立ち、にらめっこしてほしい。

両眼視できる恐竜としてはティラノサウルス類（約6850万～6550万年前）が有名で、この特徴は

2019/7/21 山陽 家庭園

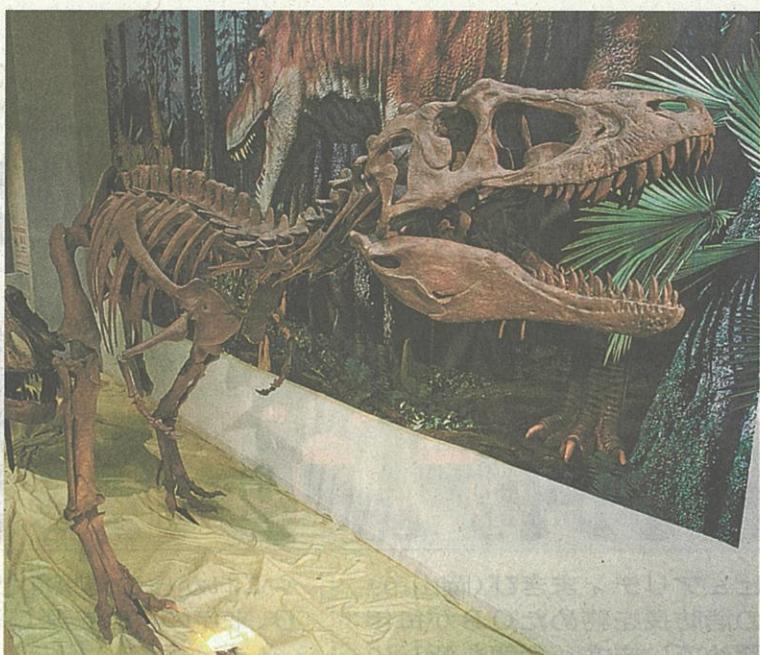
## ①「流血の王」ライスロナックス

## 両眼視と覚悟してにらめっこ

約8000万年前の地層から発見され、早い時代に両眼視の機能を備えたティラノサウルス類がいたことを世に示した。

両眼視は獲物までの距離を測るので狩りに有効である。ライスロナックスは進化したティラノサウルス類特有だとされていた。ところがライスロナックスは

22、29日、8月5、19日休館。  
II 随時掲載



両目で獲物を捉えられたティラノサウルス類の新種ライスロナックス